

[成果情報名]高冷地におけるタマネギの春まき夏どり栽培

[要約]高冷地で生食に向けた夏どりのタマネギを栽培する場合、品種は「北こがね」「Dr.ピルシー」を用い、1月下旬から2月中旬に播種し、4月上旬から中旬に定植すると、7月下旬から8月上旬に収穫できる。

[担当]総農セ・高冷地振興セ・野菜作物科・對木啓介

[分類]技術・普及

---

[課題の要請元]北杜市、JA 梨北、農業技術普及部

[背景・ねらい]

本県のタマネギの作型は、秋まき初夏どり栽培であるが、高冷地では冬季の温度の低さから生産が安定しない。一方、高冷地ではその気象条件を活かした、平坦地とは違う特徴ある品目の導入が求められている。

そこで、高冷地の夏季冷涼な気象条件を活かした春まき夏どりタマネギの栽培技術を確立するとともに、最近需要が増加してきている生食に向けた品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

- 1．品種は、春まき用の早生品種「北こがね」「Dr.ピルシー」が収量性に優れ、生食では辛味が少なく食味が良好である(表1)。
- 2．播種は1月下旬から2月中旬とし、定植は4月上旬から中旬とすると、7月下旬から8月上旬に収穫できる(表1、図1)。
- 3．フィルムマルチの利用により増収し、白黒ダブルマルチが最も効果が高い(表2)。
- 4．栽植密度は、21,000株/10aで規格内収量が最も多いが、28,000株/10aと栽植密度を高めることで販売に適したL、Mサイズの割合が多くなる(表3)。

[成果の活用上の留意点]

- 1．本県の標高750m以上の地域で栽培可能である。
- 2．貯蔵中などの腐敗球の発生抑制には、栽培期間の病害防除の徹底と、収穫前後の十分な乾燥が必要である。
- 3．貯蔵性は高くないため12月までに出荷する。
- 4．春まき用の中生や晩生品種は、十分に結球しないため利用できない。

[期待される効果]

- 1．夏に収穫できる生食に向けたタマネギとして有利販売が期待できる。
- 2．秋冬野菜などの前作に導入できる高冷地の新作型として利用できる。
- 3．高冷地における土地利用型野菜品目の一つとして活用できる。

[具体的データ]

表1 品種と収量(2009年) z)

品種名	明野町 (標高747m)		高根町 (標高955m)		生食での 辛さ <sup>x)</sup>	z) 耕種概要
	倒伏 <sup>y)</sup> 揃期	可販 収量 (kg/10a)	倒伏 揃期	可販 収量 (kg/10a)		
もみじ3号	7/14	6,307	7/16	7,118		施肥量：N-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -K <sub>2</sub> O=15-25-15 kg/10a (表2、表3共通) 栽植密度：20,833株/10a マルチ：白黒ダブル 播種日：1/29 定植日：明野3/31、高根4/3 y) 各区の80%の個体が倒伏した日 x) 北海道産「北もみじ2000」を対照に ：辛くない                   ：同等
北はやて2号	7/16	6,042	7/17	6,017		
北こがね	7/17	7,800	7/28	7,148		
Dr.ピルシー	7/21	7,840	7/27	7,695		

表2 マルチの種類と収量(2009年) z)

マルチの種類	可販収量 (kg/10a)
白黒ダブル	7,551
シルバー	7,006
黒	6,604
なし	6,479

z) 耕種概要 試験地：北杜市明野町  
 品種：Dr.ピルシー(表3共通)  
 栽植密度：20,833株/10a  
 播種日：2/13 定植日：4/13

表3 栽植密度と収量(2009年) z)

10a当たり 栽植株数	可販収量 (kg/10a)	規格別収量 y) (kg/10a)		
		2L 以上	L・M	S
27,777株	7,452	1,650	5,773	29
20,833株	7,840	5,274	2,542	24
16,666株	5,949	4,294	1,656	0

z) 耕種概要 栽植様式：畦幅160cm、4条植え  
 マルチ：白黒ダブル  
 播種日：1/29 定植日：4/3

y) 規格は球径により  
 2L：9.5cm以上 L：8.0cm以上9.5cm未満  
 M：6.5cm以上8.0cm未満 S：5.0cm以上6.5cm未満

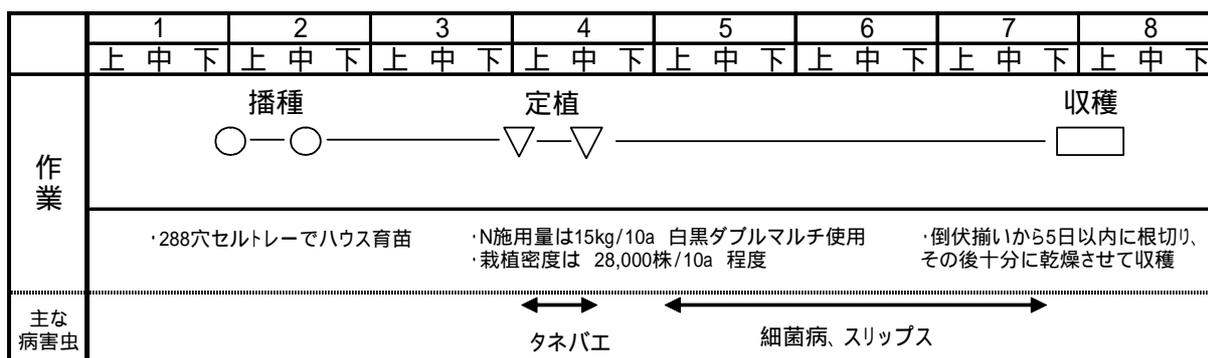


図1 高冷地(標高750m以上)における春まき夏どりタマネギ栽培暦

[その他]

研究課題名：高冷地における春まき夏秋どりタマネギの栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2008～2009年度